



2026年5月20日掲載

長期金利上昇の株価への影響は短期的

3月のイランでの紛争開始以来、石油価格上昇によるインフレ懸念の高まりで、世界的に長期金利が上昇しており、日本でも2.2パーセントだった10年国債利回りが、2.7パーセントを超えるまで上昇しています。

日銀が、紛争の行方と石油供給不足など不確実性の高い状況で政策判断を先送りし、短期金利が上がりにくいいため、長期インフレのリスクが高まり長期金利が上昇していると言えます。

また、高市首相がエネルギー対応のための補正予算編成を表明したため、国債増発による金利上昇リスクも高まっています。

ただし、金利変化と株価変動は理論的には無関係です。

例えば、インフレが理由で金利が上昇する場合、企業は商品の販売価格を引き上げることができるはずで、金利負担が増えても利益を確保するはずで、株価が金利で動くのは、中央銀行がインフレを超える水準まで政策金利を引き上げて景気を冷やそうとする場合など、一時的に終わるケースに限られます。

現在、石油価格上昇で、消費者が貯金を取り崩して一時的にインフレになる恐れはあり、長期金利の上昇につながっています。一方、石油価格上昇という同じ理由で、消費不振懸念が高まり、株価指数が下落することもあるでしょう。

つまり、金利と株価は同じ心配を原因として動いていると考えるのが適切です。また、今後財政出動が注目されれば、金利上昇と株価上昇が同時期に来るかもしれません。金利と株価の関係は短期的とみておきましょう。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》